

令和4年度 高鍋町立高鍋西小学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）4段階評価 【 A…よい B…概ねよい C…あまりよくない D…わるい 】

| | | | |
|----------------|---|---|--|
| 教育目標 | 生命の尊重を基本理念とし、地域・学校・家庭の機能を生かし、相互の連携を図りながら「たくましい体・豊かな心・すぐれた知性」をそなえた思考力・表現力・実践力のある児童を育成する。 | | |
| 目指す学校像 | ○ きまりよい学校 (当たり前のことが当たり前でできる子どもを育てる学校) ○ きれいな学校 (清掃が行き届き、整理整頓がよく、花いっぱい学校) | ○ 夢のある学校 (互いの良さを認め合い、分かる喜びを大切に学校) ○ 家庭・地域と連携する学校 【CS】 (つながり・絆を大切に、子どもを育てる学校) | |
| 目指す児童像 | ○ 元気な子ども (しっかり食べて、明るく元気がまん強い子ども) ○ よく考える子ども (よく見て、良く聞き、よく考え工夫する子ども) | ○ やさしい子ども (決まりを守り、思いやりの心を持ち、助け合う子ども) ○ 高鍋を大好きな子ども (ふるさとを愛し、誇りに思う子ども) | |
| 目指す教職員像 | ○ 授業を創造・実践する教師 ○ 協力し合う教師 | ○ 子どもを伸ばし、子どもと伸びる教師 ○ 信頼される教師 | |
| 目指す保護者像 | ○ 子どもとともに学ぶ保護者 ○ 学校・地域と協力して子どもを育てる保護者 | ○ 子どもの将来を考え、愛情と厳しさをもち、的確なしつけのできる保護者 | |
| 本年度の重点 (教育的課題) | 1 たくましい心と体 健康的な生活の習慣化、体力・耐力の向上、食育の推進 3 学力の向上 学習基盤の確立、学習内容の確実な定着 特別支援教育の推進 | 2 心の教育の充実 基本的な生活習慣の定着、互いを認め合うよりよい人間関係づくり 4 地域との連携 幼保小中連携の強化、保護者・地域と連携した児童の育成 | |

| 評価項目 | 方策・手立て | 評価指標 | 自己評価 | | 結果の考察・分析 | 改善策等 | 学校運営協議会委員評価 | | | | | |
|---------------|--|--|---|----|----------|--|---|---|---|--|---|---|
| | | | 指標別 | 総合 | | | コメント | 評価 | | | | |
| たかなべ学校エンパワー事業 | 授業改善等を中心とした子ども一人一人を伸ばすための「実効性のある」学校づくりの研究・実践 | ○ 指導力向上を目指した教材研究や相互授業参観を通して授業改善に努める。 ○ 子ども一人一人の個別最適化等を図るためにICTを効果的に活用する。 | ○ 個々の授業改善のテーマに基づいた実践をし、町のアップグレード研修にて報告する。 ○ 1日1回を目安に、児童配付のタブレットを活用した学習を行う。 | A | B | ○ 授業づくりを通して、授業の手立てや発問の仕方などを学年部で考えることで、よりよい授業づくりに取り組むことができた。さらに、互いの指導技術を共有する機会をもつことができ、各々の指導力向上につなげることができた。 ○ 特別な教育的な支援を必要とする児童について、状況に応じてケース会議を開き、よりよい支援の在り方を検討し、実践につなげている。 ○ 前年度同様、地域と連携した学習を行うことができている。また、プレスリリースし、報道で取り上げてもらうことで、取組を周知することができている。 ○ 学校運営協議会にて熟議の場を設けたことで、本年の課題であった「残食」について様々な角度からのアイデアをもらった。それを基に、新たな取組を行うことで課題の改善につながった。 ○ 入学時にことばの指導を必要とする児童は3名であった。入学前の指導により、以前より7割減である。入学後も2名は改善されている。 ○ スクールソーシャルワーカー等との情報交換や協議を通して、支援を必要とする家庭に対して支援の充実を図ることができた。 | ○ タブレットの効果的な活用法について研修を深めるとともに、どのクラスでも積極的に活用できるようになる。 ○ 来年度「コグトレオンライン」が導入されるので、個別最適な学びを実現していきたい。 ○ 来年度は、活動制限が大幅に緩和されることになるので、今まで以上に地域の力を生かした学習に取り組んでいく。 ○ ことばの指導のように「切れ目のない子育て支援」を今後も継続する。 ○ 支援を必要とする家庭は、以前よりも増加傾向にあるので、今後もスクールソーシャルワーカー等との連携した取組を行っていく。 | ○ 学年主任を中心に教材研究に取り組み、個々の指導力向上につなげられている。 ○ 認知面の聞く力・見る力が徐々に付いてきているのではないかと。 ○ 子どもたちにふるさと高鍋の人・自然・モノなどを知ってもらうことはふるさと愛につながるもので、今後も継続してもらいたい。 ○ 食に関する放送を継続的に行っていることは、「残食」減に効果が大きい。大変評価できる取組。 | A | | | |
| | 子ども一人一人に寄り添い、子どもの自己肯定感を高めるための特別支援教育・生徒指導の研究・実践 | ○ 子どもの認知面等の育成を図る「コグトレ」を実践していく。 ○ 児童の実態を的確に把握し、個に応じた指導を行う。 | ○ 週2回設定した「コグトレ」の時間を確実に実践している。 ○ 特別な教育的支援を必要とする児童には個別の指導計画を作成し、指導している。 | B | B | ○ デジタル教科書等のICTを効果的に活用し、分かりやすい授業を行うことができている。 ○ 単元まとめのテストは、正答率80%以上をほぼ達成できており、12月実施の学力調査テストも1年以外は全国平均を上回っている。 ○ 「家庭学習の手引き」を配付し、家庭訪問や学級懇談時に呼びかけ、充実を図った。 ○ ボランティアの方による「読み聞かせ」も計画的に実施することができ、本に親しませることができた。 | ○ ICT機器の活用については、教職員の個人差が大きいので、計画的に職員研修を実施していく。 ○ 次年度は、タブレットパソコンを持ち帰らせ、個々の課題に応じた学習に取り組ませる。 | ○ 思考・表現のツールとして進んで使用する姿がよく見られた。先生方もスキルアップを図ってよい。家庭への持ち帰りに課題がありそうだ。 | A | | | |
| | 学校、家庭、地域が一つになって高鍋町全体で子どもを育てる連携の在り方の研究・実践 | ○ 地域コーディネーターと連携し、地域素材を積極的に活用した教育活動を展開する。 ○ 学校運営協議会に熟議の場を設け、コミュニティ・スクールの活性化を図る。 | ○ 地域の力を生かした学習を行い、70%以上の保護者が地域連携の充実を実感している。 ○ 熟議の場を設け、多様な意見を学校運営の参考にしている。 | B | B | ○ 「よこばせごっこ式あいさつをしよう」と呼びかけ、少しずつではあるがあいさつをする児童が増えている。ただ、校内であいさつはできているものの、校外でのあいさつは今ひとつのようである。 ○ 石井十次学習や道徳教育の充実を図ったことで、思いやりの心を育むことはできている。 | ○ 思いやりの心や人権意識を育む具体的な指導を、今後も意図的・計画的に行っていく。 ○ ここ3年間でできなかった保護者・地域との連携を意識した取組を展開していく。 | ○ 普段からの思いやりの考えるための教育は、今のような取組でこそ実り多いと考える。 | A | | | |
| | 福祉課・健康保険課との連携による「切れ目のない子育て支援」の研究・実践 | ○ 入学までに改善が見られなかった児童に対することばの指導を継続していく。 ○ 子育ての支援を必要とする家庭に対して、スクールソーシャルワーカーと連携し、支援の充実を図る。 | ○ ことばの指導の先生と連携し、改善を目指している。 ○ 福祉課・健康保険課やスクールソーシャルワーカーとの情報交換や協議を行い、よりよい支援を行っている。 | B | A | ○ 体力向上に努めているものの、新型コロナにより体を動かす機会が制限され、児童の体力は低下傾向である。また、肥満傾向の児童の割合が多い。 ○ 自分自身の生活習慣を確認する「すくすく週間」を学期1回行うことで、基本的な生活リズムを整えるきっかけとなっている。 | ○ 体を動かす機会を確保するとともに、昼休みの外遊びの励行を徹底し、肥満傾向の児童の割合を減らしていく。 | ○ コロナ禍が早く改善され、より豊かな活動が出来ることを望む。 ○ 安全意識の向上が求められる。 | B | | | |
| | 【学力の向上と定着】 ・学習規律・学習基盤の確立 ・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 ・主体的な学習態度の育成及び思考力・表現力の育成 | ○ 基本的な学習習慣(聞く態度を中心に)を徹底する。 ○ 授業の改善を図り、習得と習熟を徹底し、単元まとめテストで正答率80%を目指す。 ○ 学習する意欲をもたせ、言語活動を通して思考力等を育成する。 ○ 家庭学習の習慣化を図る。 ○ 読書を推進し、昨年度の読書冊数を上回る。 | ○ 一人一人の子どもに応じて分かりやすい授業を行っている。 ○ 子どもたちは授業中、進んで学習に取り組んでいる。 ○ 学習内容の定着のために、家庭学習への手立てや働きかけをしている。 ○ 家庭学習の習慣が身に付いている。 ○ 子どもたちは進んで読書し、本に親しんでいる。 | B | B | ○ 学校は、いじめや差別のない温かい人間関係づくりに努めている。 ○ 子どもたちは楽しく学校に通っている。 ○ 子どもたちは、校内外で、笑顔で明るいあいさつや返事ができている。 ○ 子どもたちは基本的な生活習慣が身に付いている。 | ○ 命を大切にする豊かな心の育成 ・基本的な生活習慣の定着 ・望ましい人間関係を築こうとする心の教育 ・落ち着いて行動できる児童の育成 | ○ すべての児童が元気にあいさつや返事が進んでできるようにする。 ○ 規律意識、よりよい人間関係の醸成を図る。 ○ 石井十次学習など様々な体験活動を通して道徳教育の充実と実体化を図り、思いやりの心、人権意識を育む。 ○ 保護者・地域との連携を通して、地域を大切にすることを育む。 | ○ 外部と連携した防災教育の充実を図る。 ○ むし歯治療率を向上させる。 ○ 体力テストを利用し体力を向上させる。 ○ ノーメディアデーに積極的に取り組み、生活リズムを向上させる。 ○ 危険予知能力や危険回避能力を向上させる。 ○ 外遊びを奨励し運動の日常化を図る。 ○ 弁当の日を年2回実施する。 | ○ 学校は、健康でたくましい子どもを育てるために体力向上に努めている。 ○ 給食指導や食に関する指導の充実に取り組んでいる。 ○ 安全な登下校や危険から身を守る態度の育成に努めている。 ○ 子どもたちは生活リズムが身に付いている。 | C | C |